

テーマ展



華麗なる能の装い — 女神と鬼神 —

能装束

紫地牡丹菊と松皮菱繋ぎの
雲文様舞衣
当館蔵

5/11(金)
6/12(火)

深い紫地に、金糸で牡丹と菊、雲を織り表した舞衣。
舞衣は、絹や紗といった透け感のある生地に金糸や色糸で文様を織り表した、裏地のない単の装束です。同じ単の装束の長絹に似た形ですが、丈が長く、脇を縫い合わせる点などが異なり、天人や女神などの舞を舞う女性の役のみ使用します。

この舞衣で注目されるのは、袖や背中をはじめとする縫い目の部分で、文様が繋がるように仕立てる、いわゆる絵羽付となっている点です。これによって、金糸で表された松皮菱をおさめた雲とその陰から伸びる菊と牡丹とが装束に限なく展開する、華やかな文様構成に仕上がっています。濃い紫の地色に金色の文様が光り輝く、まさに天人や女神に相応しい華麗な一領といえるでしょう。

展覧会
情報

テーマ展

柳桜をこきまぜて
— 柳と桜のデザイン —

3月10日
4月10日

特別公開

国宝・彦根屏風

4月13日
5月8日

テーマ展

華麗なる能の装い
— 女神と鬼神 —

5月11日
6月12日

企画展

商家のうつわ
— 湖東の商家伝来のやきもの —

6月15日
7月16日

テーマ展

展示室 1

3/10 (土) ~ 4/10 (火)

柳桜をこきまぜて

―柳と桜のデザイン―

見渡せば柳桜をこきまぜて 都ぞ春の錦なり
ける―三十六歌仙の一人、素性法師が詠んだ和歌にあるように、柳と桜は、春を彩る花木として長くイメージされてきました。

本展では、華やぐ満開の桜やしなやかに枝垂れる柳をあらわした絵画や工芸品などを紹介します。展示室で繰り広げられる柳と桜の競演をお楽しみください。



能装束 枝垂柳に桜尾長鳥文様長絹



柳時絵料紙箱

◎ギャラリートーク◎

日時 3月10日(土)

11時〜、14時〜

講師 高木文恵(当館学芸員)

特別公開

展示室 1

4/13 (金) ~ 5/8 (火)

国宝・彦根屏風

彦根藩主井伊家に伝来したことから「彦根屏風」の名で広く親しまれている屏風は、近世初期風俗画の傑出した名品として高く評価されています。毛筋の一本一本、絞り文様の一つ一つに至るまで表現する圧倒的に緻密な筆致、金地を背景とする極めて洗練された構図、江戸時代初期の華やかな風俗や時代を反映した静寂な空気など、多様な魅力あふれる彦根屏風の世界を堪能ください。

彦根屏風は、後世に写しやアレンジ作品が多く制作されました。本展では、江戸時代に描かれたアレンジ作品一点を併せて展示します。

◎ギャラリートーク◎

日時 4月14日(土)

11時〜、14時〜

講師 高木文恵(当館学芸員)



風俗図(彦根屏風)部分



美人曳犬図部分 個人蔵

テーマ展

展示室 1

5/11 (金) ~ 6/12 (火)

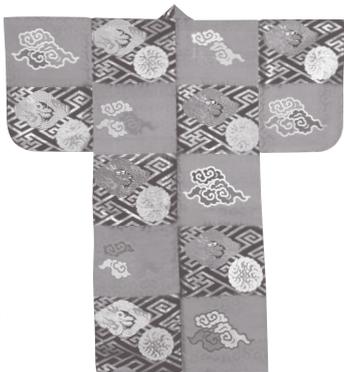
華麗なる能の装い

―女神と鬼神―

能では、演じる役柄によってその装い、すなわち身につける面や装束、鬘、冠り物などがおおよそ決まっています。本展では、様々な装いの中から、若い女の面をつけ、可憐な草花で彩られた装束をまとう美しい女神と、恐ろしい表情をした神の面で、竜や稲妻文様の装束を身につける荒々しい鬼神の装いを紹介します。能面と色鮮やかな装束、小道具の取り合わせの妙をご覧ください。



能面 泥黒鬘 甫閑満猪作



能装束 紅黒段替毘沙門亀甲 稲妻雲竜波丸文様厚板

◎ギャラリートーク◎

日時 5月12日(土)

11時〜、14時〜

講師 茨木恵美(当館学芸員)

企画展

展示室1

6/15 (金) ~ 7/16 (月・祝)

商家のうつわ

— 湖東の商家伝来のやきもの —

江戸時代の頃から近江は、大坂、伊勢と並び、有力な商人を輩出した地域として知られています。彦根藩の領内でも、城下はもちろん、高宮をはじめとする近隣の街道沿いの町には、有力な商家が軒を連ね、行商を中心とする全国規模の商いが行なわれてきました。これらの商家においては、大勢の客をもてなすため、数十人前にも及ぶ大揃いの膳碗などの食器類が、家に備えておくべき必須の道具とされました。これらの器は、華やかな色や模様で彩られており、いかにも富商好みの趣があります。本展では、湖東地域の商家に伝来したもてなしの器の数々を紹介いたします。



錦手松竹に折鶴文重箱 個人蔵



染付花卉文皿 個人蔵

◎ギャラリートーク◎

日時 6月16日(土)

11時~14時

講師 奥田 晶子 (当館学芸員)

特集

新収蔵資料クローズアップ

◎生花透罽 銘江州記内

小笠原信夫氏寄贈

この罽は、梅の枝を桶に生けた様子を透彫りて表し、莖櫃の左右に「江州」の銘を切ります。記内とは、江戸時代を通して越前に拠点を置いた罽師の一派で、初代記内は近江の出身と言われています。「江州」の銘が刻まれたこの罽は、初代記内と近江との関わりを証明する現存唯一の作例として、大変貴重な資料と言えます。



生花透罽 銘江州記内



同部分

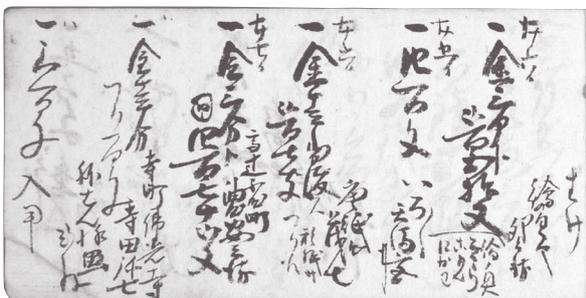
本作は平成二十七年に、記内ゆかりの近江の博物館で展示してほ

しいとご所蔵者からお申し出があり、当館へ寄贈いただく運びとなりました。現在は年に一度、主に常設展で展示しています。自由な曲線を描く梅の枝や、粗さと滑らかさが交じった柔らかな鉄の肌合いなど、初代記内が見せる鉄の技をご堪能ください。

◎高崎家文書「大宝恵」

個人寄贈

平成二十七年に、江戸時代に彦根城下の河原町で表具屋を営んでいた高崎家伝来の古文書等をご寄贈いただきました。この古文書なかに、表紙に「弘化五年(一八四八)正月吉日 大宝恵、裏表紙に「彦根河原町 表増」と記された金銭出納簿があります。「表増」は「表具屋増次郎」の略称と推測されます(益次郎)とも称しました)。内容は、明治五年(一八七二)頃まで書き継がれており、表具の仕立てに用いたと思われる刷毛や紙、布地、絵の具などの京都での購入記録のほか、京都・彦根往復の道中費用や芝居見物費用の書き上げ、市での掛け軸等の入札・購入記録など、多岐にわたる興味深いものです。今後、詳細な記事を読み込むことにより、幕末から明治の彦根の様相を町人の視点から浮かび上がらせることができ、貴重な史料です。



高崎家文書「大宝恵」 部分

金亀玉鶴



絹屋窯の湖東焼

湖東焼は、江戸時代後期から明治時代の頃に彦根で焼かれたやきものです。湖東焼というと、彦根藩の藩窯というイメージが強くありますが、始めたのは彦根城下の商人絹屋半兵衛（？～一八六〇）という人物です。絹屋は、文政十二年（二八二九）に、彦根城南西を流れる芹川南岸の晒屋に窯を開き、二年目に城の東、佐和山の麓の餅木谷に窯を移しました。そして天保十三年（一八四二）、この窯は藩に召し上げられ、藩窯として発展を遂げることとなりました。

この十三年間に絹屋が制作した湖東焼について、わずかに作例は確認されているものの、未だそれらを詳細に検討することは行われていませんでした。絹屋窯を語る際の手がかりとされてきたのは、古老の話聞き書きするなどしてまとめられた北村寿四郎氏の著書『湖東焼の研究』（大正十四年刊行）の記述です。この書には、絹屋窯が「主として磁器を造り、傍ら陶器を焼いた」こと、磁器には「染付と赤絵」があり、染付の絵付には「始め唐呉須を用いたが、高価であったから、後には美濃呉須を用いた」こと、「製品は文房具、茶器、飲食品、厨房用器な

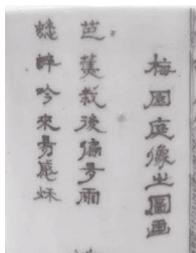
ど」であったことが記されています。また、作例として天保七年の銘のある染付の筆筒が挙げられており、「其釉薬は稍粗うして光沢なく、淡い青味がかゝり呉須の色は稍薄暗い方である」と記されていますが、写真は掲載されず、この書をもとに、絹屋の湖東焼の作風を具体的に理解することは難しい状況でした。

こうした状況のもと、平成二十八年に、絹屋時代の年記のある作品（写真）が、当館に寄贈されました。この作品でもって、絹屋の湖東焼について、より具体的に探ることが可能となったのです。

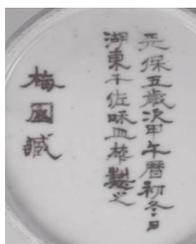
本作は、高さが約十二cmの円筒形の筆筒



湖東焼 染付芭蕉竹松図筆筒
(遠城和雄氏寄贈)



同 側面



同 底部

筒で、単純ながら整った形であり、胎もしつかりと焼き締まっています。ただ、白磁とはいふものの、地全体が青く沈んだ色調で、呉須の発色も藍というよりは紺に近く、全体にくすんだ色となっています。この色は、『湖東焼の研究』における筆筒の記述と共通しています。

『湖東焼の研究』では、絹屋が資金繰りや販売経路の開拓に苦労したことや、藩窯に比べて品質が劣ることが語られており、その影響で、不成功に終わった窯というイメージが流布しているように思えます。しかし、そもそも磁器制作のためには、高温焼成が可能な窯や熟練した職人の技が必要であり、本作をみれば、絹屋の窯が、これらを備えていたことは明らかです。しかも本作の絵付は細かく、藩窯の作品と比べても遜色のない巧みな筆さばきです。絹屋の湖東焼は、やきものとして、一定以上の品質を有していたと言えるでしょう。

さらに注目されるのは、銘と絵付の内容です。本作の側面には、染付で「梅園庭像之図画」という題字が記され、垣根の内に松や竹、芭蕉と置き石のある庭の景が描かれ、七言二句の詩文「芭蕉栽後偏多雨 蟋蟀吟来易感秋」が書き付けられています。底部にも染付で「天保五歳次甲午曆初冬日 湖東于佐和山麓製之梅園蔵」という銘が記されています。

銘から、天保五年（一八三四）十月に佐和山の麓で制作されたこと、梅園とい

う人物の蔵品であることが分かります。染付銘は、制作工程上、焼成前の絵付の際に書き入れるため、本作は、梅園の注文品であったと判断されます。しかも側面の絵と詩は、梅園の庭を表すものでありますが、同じ側面の題字から読み取れます。そのため、梅園が絵付内容を指示して制作させたと考えられるのです。

磁器の焼成が未だ全国規模では行われていない当時、窯元に好みの意匠の磁器を注文して制作させることは贅沢な行為であったはずですが、このような状況で、絹屋の窯は、磁器を制作できる近隣では貴重な窯であり、しかも、オーダーメイドの絵付に対応していたことが、本作からうかがわれます。この窯に発注した作品を所持できるということは、当時、この地域の文化人にとってはある種のステータスになっていた可能性も考えられるのではないのでしょうか。

絹屋の窯は、産業的な面において成功したとはいえない窯ですが、その作品の品質は高く、地域の文化人たちの求めに応じること、活躍の場を得ていたのではないかと考えられます。小規模ながら一定の評価を得た窯であったからこそ、彦根藩に召し上げられたとも考えられるでしょう。今後も、このように作例を詳細に検討する中で、湖東焼の諸相を明らかにしていきたいと思えます。

（奥田晶子）

催し

◎ 水無月狂言の集い ◎

■ 開催日時

6月30日(土) 18時開演(17時30分開場)

■ 場所

当館能舞台

■ 演目

大蔵流狂言

■ 解説

茂山 茂

■ 「鑑」

茂山 七五三

■ 「魚説教」

茂山 千作

■ 「文山立」

茂山 茂

■ チケット

全席指定

A席(正面) 3千500円

B席(脇正面) 3千円

6月1日(金) 発売開始

*開催日時・演目・出演者等は、都合により、やむなく変更することがございますので、ご了承ください。

*チケットは、当館受付およびお電話にてお求めいただけます。(発売初日は館内販売)

9時～、電話予約は10時)

*未就学児の方はご入場いただけません。



募集

◎ 「古文書のみかた」

受講生募集 ◎

古文書解読を基礎から学ぶ教室「古文書のみかた」の受講生を募集します。

■ 開講日時

5月19日、6月2日、6月23日、7月28日、8月18日、9月1日、9月15日の14時～16時

(全7回、いずれも土曜日)

場所

当館講堂

定員

60名(応募者が定員を超えた場合は抽選)

資料代

500円

申込方法

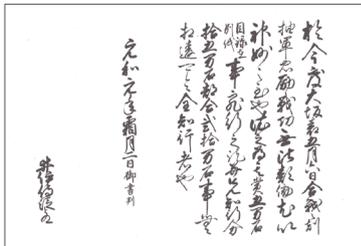
往復はがき(1人につき1枚)の往信に住所・氏名・電話番号を、返信の宛名面に住所・氏名を明記の上、お申し込みください。

申込期間

3月29日(木)まで

*当日消印有効

*抽選の場合、4月16日(月)以降に当選結果を通知します。



昨年度の講読史料
(徳川秀忠領地宛行状書)

◎ 平成30年度

支援スタッフ募集 ◎

当館では、事業をサポートしていただく支援スタッフを募集しています。博物館を盛り上げる活動に参加しませんか。

■ 活動内容

①教育普及事業

小学生対象体験講座の運営スタッフ(体験メニューの準備、指導補助)

②調査研究事業

古文書解読ボランティア(当館所蔵の彦根藩井伊家文書等の解読)

*当館開催教室「古文書のみかた」を終了された方、または同程度の解読力を有する方が対象です。登録希望の方は、事前に学芸史料課古文書解読ボランティア担当へお問い合わせください。

申込方法

当館「支援スタッフ」係まで、お電話にてご応募ください。(8時30分～17時)

申込期間

3月16日(金)まで

*4月以降に開催する研修へ参加いただけます(日付は未定です)。

*①、②の事業を兼ねて登録いただくことも可能です。



◎ 友の会 会員募集 ◎

彦根城博物館友の会では、平成30年度の新規会員を募集しています。博物館をより身近に感じることが出来る「友の会」に入会して、歴史・文化との出会いを楽しみませんか。

■ 会員特典

①会員証で彦根城博物館の常設展ほか、展示会が観覧できます。

②友の会ニュースや博物館だより等をお送りします。

③友の会主催の講演会や現地研修等に参加できます。

年会費

一般会員

2千円(高校生は1千円)

ジュニア会員(小・中学生)

500円

賛助会員

1口以上(1口…1万円)

会員期間

入会時から平成31年3月31日まで

入会方法

当館受付にある入会申込書をご利用ください。ご希望の方は郵送もいたしますので、お問い合わせください。

問い合わせ先

彦根城博物館友の会事務局(中野)

*友の会専用電話

0749-47-5787

スケジュール 3月～6月

6月		5月		4月		3月	
30土	23土	19土	12土	14土	10土	9金	
龍・狼奇 水無月狂言の集い	教室 古文書のみかた③	教室 古文書のみかた①	ギョウリョウトク 華麗なる能の装い —女神と鬼神—	ギョウリョウトク 国宝・彦根屏風	ギョウリョウトク 柳桜をこきまぜて —柳と桜のデザイン—	休館	
商家のうつわ —湖東の商家伝来のやきもの—		華麗なる能の装い —女神と鬼神—		国宝・彦根屏風		柳桜をこきまぜて —柳と桜のデザイン—	
6/15～7/16		5/11～6/12		4/13～5/8		3/10～4/10	
常設展示 “ほんもの”との出会い							
6/12～14 展示替により一部休室		5/9・10 展示替により一部休室		4/10～12 展示替により一部休室		3/7・8 展示替により一部休室	

*「古文書のみかた」は事前申込制です。

開催! 特別展

ながそねこてつ 長曾祢虎徹

—新刀随一の匠—

10/26(金)
～
11/25(日)

江戸時代前期の刀工・長曾祢虎徹。彼が制作した刀剣は、切れ味が鋭く、よく締まった強い鉄が高く評価され、新刀随一の作とも称されました。虎徹あるいはその先祖の出身は、近江国長曾根村(現・滋賀県彦根市)と言われます。

本展では、彦根ゆかりの名工・長曾祢虎徹の作品の数々を紹介し、その魅力に迫ります。



脇指 銘長曾祢興里入道虎徹



同 茎

刊行物

彦根城博物館研究紀要 第28号

内容

資料紹介「御家中家並帳」

平成二十八年度に購入した「御家中家並帳」の全文を紹介します。本史料は、彦根藩士の名前を城下町の屋敷の並び順に列記し、その家紋も描いたもので、藩士の家紋一覧としても利用できる貴重な史料です。

3月23日発行予定

*当館ミュージアムショップで購入いただけます。郵送での購入を希望される方は、ミュージアムショップへお問い合わせください。



「御家中家並帳」部分

※展示期間および内容などは変更する場合があります。詳しくは当館ホームページでご案内しています。



彦根城を世界遺産に
彦根城はユネスコの世界遺産暫定リストに登録されており、世界遺産をめざしています。

編集・発行

彦根城博物館

〒522-0061

滋賀県彦根市金亀町1番1号

TEL 0749(22)6100 FAX 0749(22)6520

http://hikone-castle-museum.jp/



この印刷物は8000部作成し、印刷単価は7円です。